

CCDS IoT セキュリティビジョン 2023 開催報告

主催者 一般社団法人 重要生活機器連携セキュリティ協議会

2023年10月6日、ビジョンセンター永田町にて一般社団法人 重要生活機器連携セキュリティ協議会 (CCDS)、セキュリティ技術 WG 主催により「IoT セキュリティビジョン 2023」が開催されました。今回のイベントは、CCDS サーティフィケーションプログラムに関連するソリューションや製品を一堂に集めたセミナーと展示会を並行して行いました。

セミナーでは、CCDS 代表理事の荻野より国内外の IoT セキュリティを対象とした認証制度の最新動向を説明すると共に、各企業からサーティフィケーションに対応した最新ツールやソリューションをご紹介いただきました。

また展示イベントでは、セミナーで紹介されたツールやソリューションのデモを体験していただきました。

1. プログラム

名称	CCDS IoT セキュリティビジョン 2023
主催	一般社団法人 重要生活機器連携セキュリティ協議会(CCDS) セキュリティ技術WG
日時	2023年10月6日 (金) 11:00~17:00
会場	ビジョンセンター永田町
実施方式	会場参加
技術協力	ONWARD SECURITY JAPAN株式会社 積水ハウス株式会社 大日本印刷株式会社 日立チャネルソリューションズ株式会社 富士ソフト株式会社 株式会社マストトップ 株式会社ラック
プログラム	[11:00~11:10] 開会挨拶 富士ソフト株式会社 ソリューション事業本部 インフラ事業部 セキュリティソリューション室 柴田 秀行 氏 [11:10~11:50] 基調講演 『日米欧における IoT セキュリティ施策動向を読み解く』 ~EUCC,RED,CRA,ETSI303645,NIST8425,ISO/IEC2740X,etc~ 一般社団法人 重要生活機器連携セキュリティ協議会 代表理事 荻野 司

[11:50~13:00]

休憩&イベント観覧タイム

[13:00~13:40]

講演 1

『CCDS サーティフィケーションプログラムへの対応』
～認証取得のために IoT 製品メーカーとしておさえるべきポイント～
株式会社マストトップ 代表取締役
田久保 順 氏

[13:50~14:30]

講演 2

『CCDS 認証制度における検証方法と脆弱性対策のご紹介』
日立チャネルソリューションズ株式会社
コア技術開発センタ コア技術開発センタソリューション技術開発本部
ソリューション技術開発部 第2課 技師
石川 智祥 氏

[14:30~15:00]

休憩&イベント観覧タイム

[15:00~15:40]

講演 3

『グローバル IoT 製品セキュリティ認証の最新動向と Onward 社の役割』
ONWARD SECURITY JAPAN 株式会社 サイバーセキュリティ技術部 部長
杜 昱星 (Star TU) 氏

[15:40~15:50]

講演 4

『適合性評価制度の先にある問題をみつける IoT デバイスペネトレーションサービス』
株式会社ラック
DI 統括部 デジタルペンテスト部 担当部長
木田 良一 氏

[16:30~16:35]

セミナー閉会挨拶

一般社団法人 重要生活機器連携セキュリティ協議会 事務局長
田久保 順

2. CCDS IoTセキュリティビジョン 2023 セミナー開催報告

2-1. 開会挨拶

富士ソフト株式会社

ソリューション事業本部 インフラ事業部 セキュリティソリューション室

柴田 秀行 様

富士ソフト株式会社の柴田秀行様より、本日のシンポジウムのテーマについて冒頭挨拶をいただき、セミナーは開会となりました。



2-2. 基調講演

『日米欧における IoT セキュリティ施策動向を読み解く』

～EUCC,RED,CRA,ETSI303645,NIST8425,ISO/IEC2740X,etc～

一般社団法人 重要生活機器連携セキュリティ協議会 代表理事

荻野 司

基調講演として、CCDS 代表理事の荻野より講演を行いました。講演の前半では日、米、欧が目指す IoT セキュリティの認証や法制化の施策について、それぞれの方向性の差異やスキーム、要件について解説が行われました。後半では、CCDS が取り組む民間主導の認証制度であるサーティフィケーションプログラムについて、その概要や経済産業省が進める適合性評価制度との統合方針が紹介されました。



2-3. 講演 1

『CCDS サーティフィケーションプログラムへの対応』
～認証取得のために IoT 製品メーカーとしておさえるべきポイント～
株式会社マストトップ 代表取締役
田久保 順 氏

続く講演 1 では、株式会社マストトップの田久保 順氏より、CCDS が推進するサーティフィケーションプログラムの概要や、取得のためのプロセスや費用、遵守が求められるセキュリティ要件の内容について IoT 製造メーカーの視点でポイントの解説が行われました。また同社が提供する CCDS の IoT セキュリティの演習コースやマーク取得支援のソリューション紹介が行われました。



2-4. 講演 2

『CCDS 認証制度における検証方法と脆弱性対策のご紹介』
日立チャネルソリューションズ株式会社
コア技術開発センター コア技術開発センターソリューション技術開発本部
ソリューション技術開発部 第2課 技師
石川 智祥 氏

講演 2 として、日立チャネルソリューションズ株式会社の石川 智祥氏より、CCDS のサーティフィケーションプログラムのマーク取得にあたり、適合検査の内容や手法についての解説をいただきました。また、講演の後半では、同社が活用している SBOM を用いた脆弱性管理ツールや、標的型攻撃への体験演習の紹介、DEF CON31 で発表された NFC のハッキング事例について説明をいただきました。



2-5. 講演3

『グローバル IoT 製品セキュリティ認証の最新動向と Onward 社の役割』
ONWARD SECURITY JAPAN 株式会社 サイバーセキュリティ技術部 部長
杜 昱星 (Star TU) 氏

講演3では、ONWARD SECURITY JAPAN 株式会社の Star 氏より、台湾や米国、欧州における IoT を対象とした認証制度の状況や概要、認証取得のソリューションについて、ご講演をいただきました。講演の前半では同社がドイツの DEKRA 社と連携して提供する認証取得のソリューションについてご紹介をいただきました。また講演の後半では、台湾のモバイルアプリ情報セキュリティ認証体制や、米国の CITA、IoT アライアンスによる認証制度、欧州の RED-DA について、それぞれの特徴や認証方法について解説をいただきました。



2-6. 講演 4

『適合性評価制度の先にある問題を見つける IoT デバイスペネトレーションサービス』

株式会社ラック

DI 統括部 デジタルペンテスト部 担当部長

木田 良一 氏

本日最後の講演 4 では、株式会社ラックの木田 良一氏より、同社が提供する IoT デバイス向けのソリューションのご紹介と共に、国内における IoT セキュリティの取り組みや課題について、ご講演をいただきました。講演の前半では同社の沿革や事業紹介、IoT デバイス向けのペネトレーションテストを含むソリューションについてご紹介をいただきました。講演の後半では、国内における IoT セキュリティ対策の状況について、デバイス側の対策や脆弱性診断、SBOM 等における現状の課題や状況についてご説明をいただきました。



3. CCDS IoTセキュリティビジョン 2023 – 展示イベントの開催報告 –

3-1. 展示ブース①：積水ハウス株式会社

【展示概要】

積水ハウスではグローバルビジョン「わが家」を世界一幸せな場所にする」実現のために、「人生 100 年時代」の幸せをアシストする「プラットフォーム構想」を掲げています。その第一弾として 2021 年にサーティフィケーションプログラム スマートホーム分野認証★★取得した「PLATFORM HOUSE touch」をリリースしました。今回はこの「PLATFORM HOUSE touch」の体験デモ装置の展示や、今後のサービス展開についてのご説明をいただきました。



3-2. 展示ブース②：ONWARD SECURITY JAPAN 株式会社

【展示概要】

講演では世界最大級の認証機関である DEKRA グループが日本での唯一のセキュリティ指定試験所として、IoTセキュリティ専門会社の Onward 社が海外の IoT セキュリティ認証制度(ioXt・ctia・台湾モバイルアプリ認証)に具体的な例を加えて解説いたしました。展示ブースでは各国に信頼された指定認定試験所は欧州認証機関との連携により、欧州無線機器指令 RED-DA の認証制度をクリアする例にワンストップソリューションについて展示やご説明をいただきました。



3-3. 展示ブース③：日立チャネルソリューションズ株式会社

【展示概要】

日立チャネルソリューションズでは、自社のセキュリティ対策の取り組みを、現場目線で真のニーズに応えられる商材として販売予定です。展示ブースでは、例として、(1)CCDS 認証マーク取得で必要となる、ツールを用いた具体的検証方法、(2)PSIRT 活動の抜本的効率化に向けた、SBOM(Software Bill of Material)を用いた脆弱性管理ツール、(3)攻撃体験を通じて対策の重要性を体感する、標的型情報漏洩体験演習、の3つを展示いたしました。



3-4. 展示ブース④：株式会社マストトップ

【展示概要】

CCDS の指定検査資格を取得するための「IoT ハッキングコース」に使用している IoT 演習環境を設置し、疑似スマートホーム環境に対する実際の演習や検査の一部を体験していただきました。IoT 演習環境はオープンソースのセキュリティツールを実装し、多数の国内大学機関様に採用いただいております。今回は展示では環境の説明や導入方法なども説明を行いました。



3-5. 展示ブース⑤：株式会社ラック

【展示概要】

今回の展示ブースでは株式会社ラックのご紹介、ならびに IoT デバイスペネトレーションや、他分野別のペネトレーションテストサービスについても、資料の展示やご紹介を行いました。



3-6. 展示ブース⑥：富士ソフト株式会社

【展示概要】

今回の展示では、IoT 機器向けファジングツール「Raven for Fuzzing」の実働デモ展示や、様々な分野で対応可能な各種セキュリティソリューションについて、資料展示と紹介を行いました。



3-7. 展示ブース⑦：大日本印刷株式会社

【展示概要】

当社では、IC カードベンダーとして培ってきたセキュリティの技術・ノウハウを基に、金融機関向け業務装置や決済端末の遠隔保守システム、工場における暗号化の鍵管理システムなど、IoT デバイス向けのセキュリティを提供してまいりました。今後、更に活用シーンの拡大が期待される IoT デバイスに対して、安心・安全な遠隔保守の実現や、レギュレーション・標準化の対応等、セキュアなサービス環境の構築を支援する当社の取組紹介を行いました。



4. 参加者数

事前申込登録者	・会場申込：54名
参加者数	・会場参加：41名

以上